



全国のフリーペーパーとフリーマガジンを集めた交流サロン「紙楽社」(しらくしや)を運営する中野さんに紙媒体の魅力を伺いました。

手に取るだけで知らない情報にアクセスできるフリーペーパーの魅力を伝えたい。



紙楽社 代表 中野 拓治さん (なかの・たくし)

1978年呉市生まれ。広島県立海田高校出身。半導体関連の会社に勤務のかたわら、11月から紙媒体の交流サロン「紙楽社」をオープン。乗り鉄と日本酒が好き。

広島県安芸郡海田町畝1丁目16-5 <http://shirakusya.com/>

旧街道沿いの古民家が舞台

「紙楽社」は、全国のフリーペーパーやフリーマガジンを展示し、紙好きが集って交流を深めることを目的としたサロンです。海田町の旧西国街道沿いにある古民家を改装したスペース、&古民家を舞台に、今年11月から月に3回ほど開催しています。私は三江線を旅したことから地域活性化に関心を持ち、廃線後の沿線の跡地活用などを紹介するフリーペーパー「35 Live」(サンコライブ)に関わることになりました。私はもともとブログをしていたのですが、フリーペーパーの編集を進めるうちに、WEBメディアにはない紙媒体の良さに魅せられるようになったんです。

紙媒体は情報の宝庫

インターネットは便利ですが、

が、自分で能動的に検索しなければ情報を得ることができません。逆に、自分が既に知っていることに関する情報しか得ることができないことにもなります。一方、紙媒体だと手に取るだけで自分の知らない情報を気軽に手に入れることができます。京都や大阪にフリーペーパーの専門店があることを知り、自分でもやってみようと思ひ、全国の発行元から直接取り寄せたり、関西の専門店に行ったりしてフリーペーパーの収集を始めました。そんな時、海田町で地元や広島国際学院大学の人たちが古民家を再生させるプロジェクトを進めていることを知り、そこを借りて紙媒体による情報提供の場を作ることにしたのです。現在、北海道から沖縄まで全国約110のフリーペーパーを展示しています。ジャンルも街の紹介から、文学や音楽、ファッションなど幅広く、その内40ほどはお持ち帰りいただけます。お酒やおつまみも持ち込みOKなので、リラックスして楽しんでもらいたいですね。

パラレルキャリアを充実させる

私は普段は半導体関連の会社に勤めています。サロンなどで入場料はいただいています。が、儲けを出すことは考えていません。紙楽社は、会社での仕事とは別のスキルや人脈を身に付けるための「パラレルキャリア」の一つだと捉えています。始めたばかりでまだまだ試行錯誤が続いていますが、フリーペーパーの数を増やすなど、まずはこの場所を充実させてリピーターを増やし、その上で、出張イベントなども開催していきたいと思っています。紙楽社発のフリーペーパーも作りたいですね。紙楽社がきっかけとなって、広島で面白いことにトライする人が増えてきたら嬉しいですね。



▲芸陽バス・畝橋バス停より徒歩8分。今月の開催日は12/5(水)14:50時、12/22(土)12:18時に開催予定。入場料は500円で、お酒やおつまみも持ち込みも自由。